

これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

子どもたちの学校生活が、新型コロナウイルスで変わってしまいました。友達と密にならないように学び、遊ぶ楽しみや行事もありません。こんなときこそ、本の力を信じて楽しんで読み聞かせをしてください。

今回は、国語や道徳の教科書にも取り上げられている「ともだちや」を紹介します。

作者の内田麟太郎氏は、詩人、絵詞作家として活躍しています。「ともだちや」が本になるとき、画は個性豊かな新人にお願いたないと、編集者に頼んだそうです。作画は当時スロヴァキア共和国の美術大学生だった降矢なな氏が担当しました。

降矢氏は、友達がほしいさびしんぼうのキツネの決意を想像し、水の中の動物や乱暴者の友達に出会っても大丈夫なように、キツネを思い切った格好に描き

ました。腰には浮き輪、ヘルメットに水中眼鏡をつけ、のぼり旗と提灯。その画を見たとき、内田氏は大変驚いたそうです。絵本は人気となり、13冊の「おれたち、ともだち」シリーズになりました。

読み聞かせでは、表紙を見ただけで、子どもたちはキツネが海やお化けの国に商売に行くと想像しました。キツネが友達を作るとき、勇気を出して声をかける姿は、子どもが初めて友達を作る姿と重なります。

この物語から子どもたちは、友達はお金で買えないことを学ぶでしょう。でも友達は、仲のいいときばかりではありません。ときにはケンカもして、友情と心を育てていくのです。秋の読書週間、友達の良さを再発見するには、シリーズになった本もぜひ読んでほしいと思います。



ともだちや

内田麟太郎・作
降矢なな・絵
(偕成社)